

# 勝林寺奇報

## いろはうた



「四月の春の花花は、いろかがやかに咲いているけれども、やがて散りしほみ、はては塵あくたとなってしまう。人のいのちとておなじ。いついたれが、いのち移ろわぬものがあるだろうか。自分の小さな快樂や苦惱に喜怒哀樂する、険しい山路にも例えられるこの煩惱の日々を、明日といわず今日、いま越えて、浅はかな夢から目覚め、うそ・偽りつかの間の楽しみに酔わない、眞実清浄永遠の世界に生まれ変わろうではないか」

遠い昔から伝え伝えられてきた「いろはうた」です。

いろはにはへと  
わかよたれそ  
うゐのおくやま  
あさきゆめみし  
ゑひもせす

アイウエオ、では伝わってこない如来の真実の教えを、やっぱり「いろはうた」に、わたし目當てに呼ばれている如來の慈愛のおしかりを聞かなければなりませんまい。

色は匂えど  
我が世  
有為の奥山  
浅き夢見じ  
酔いもせず

ちりぬるを  
誰ぞ常ならん  
今日越えて  
ますまい。

にほう花のような人生を生きた人達が、最近つきつぎと突然去っていかれました。

「四月の春の花花は、いろかがやかに咲いているけれども、やがて散りしほみ、はては塵あくたとなってしまう。人のいのちとて同じ。いついたれが、いのち移ろわぬものがあるだろうか。」

「四月の春の花花は、いろかがやかに咲いているけれども、やがて散りしほみ、はては塵あくたとなってしまう。人のいのちとておなじ。いついたれが、いのち移ろわぬものがあるだろうか。」

顕如上人四百回忌法要  
団体参拝に参加して

坪口 中嶋 紗子

## 五月のこよみ

一日 兼井彰子氏宅祥月  
数森正之氏宅法事  
永井淳氏宅法事

二日 宮嶋文夫氏宅法事

中島富美男氏宅法事

田中歳康氏宅法事

中島俊昭氏宅法事

数森一郎氏宅法事

東京築地別院常例

玉会(高福寺)

十六夜会(本覚寺)

永井正人氏宅忌明

永井淳氏宅法事

斎藤照義氏宅法事

小倉市明恩寺永代経

みのりを聞く会

二七日

二八日

一九日

二一日

二五日

一七日

九日

四日

三日

一日

二日

三日

四日

五日

六日

七日

八日

九日

一〇日

一一日

一二日

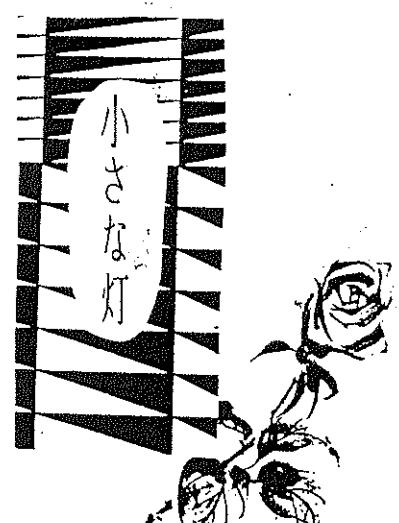
坊守さまの一所懸命なおすがたに感化されたわたくし。まねて少しずつ作つてゐるうちに五〇〇個以上、小さな灯のブローチ。

六年生の孫娘の胸にキラキラ、サイパン旅行までしました。おみのりの友の胸にも、それから出石学園のお子たちや老人大学の同窓生などなど。

四月四・五日はご本山のご法要への団体参拝でした。

最初のご入院のとき、おどろいてお見舞いにあがりました。  
その時分はまだ、それだけのお元気が  
おありだったのでしょうか。いつものあの  
やさしい笑顔で、わたしの手のひらに、  
なにやら美しくキラキラ光る小さなもの  
をのせてくださいました。  
奥様手作りのブローチでした。  
ご自身病の床にありながら、わたした  
ちのくらしに灯をともして上げようと、  
懸命に作りつづけてくださった美しいブ  
ローチ。  
あついものがこみあげてきて、お見舞  
いのことばもまともに申せませんでした

わたしたちの大切な坊守さま。  
病に倒れられてからあしきけ三年目。



ほくか おばあちゃんと 小学校の 入学式からかえってきたとき 「アーマー」 あ、お寺からマーサちゃんに こんなものが が送つてきとるワ！」 といつて郵便箱からおばあちゃんが 大きな郵便の袋をとて わたしてくれた。おもてに ぼくの 名前が 大きな字で書いてあつた。中からは本と白色のお数珠とができました。 「サッ、このお数珠でほとけさんにおまいりせんなん！」 とおばあちゃんがいつた。

おばあちゃんは ほとけさんに赤いローソクをともして ぼくといっしょに ほとけさんをおがみました。

それから「マーサちゃんは 今日から学校の一年生や。ほとけさんの子供の一年生やで」とおばあちゃんはいった。  
ぼくも うれしくなつて 送つてもらった本を すこしだけ おばあちゃんに よんであげました。

入学祝い



勝林寺仏婦会員こそつて、奥様の一日も早いお帰りをおまちいたしております

いつもなら私達を引率してテキパキ動いてくださる坊守さま。どんなにご一緒にしたかったことか。

そこで私、同じバスの人たちにみんな奥様伝授のブローチをつけていただきました。バスガイドさんにもつけてもらいました。

坊守さまのともしてくださいった小さな灯を胸に、ご本山まいりをいたしました

(おかげさんからの電話)  
勤務の都合がつかず、  
には母(この子の祖母)、  
ました。それでもと思い、  
して3時過ぎに帰ってき  
がすぐにお寺からいただ  
を見せてくれました。

この子は生まれたときお寺で初参式をしていただいた子です。お寺ではそれで、一年生の入学を祝つてくださったのでしょうか。生まれたときからずっと、ほとけさまに見守られて育てていただいているように思います。

夕方、夫も父も帰ってきて、賑やかにお赤飯とケーキのお祝いの宴のあと、みんなでお仏壇にお礼をしました。

白いお数珠が一年生のこの子に とつてもよく似合います。ありがとうございます。

(おばあちゃんからの電話)  
入学式へ行くと、さすがに若いおかあちゃんがほとんどで、私のような年よりはほんのわずかでした。  
こんなパパーあがついてきて、孫がかわいそうに思いましたが、と共に、マーこの子が学校あがるまで、私はおれるだろうかなんて思うと、とたんにはかなく悲しくて、つい涙がこぼれて恥ずかしかったです。

そんなおもいのなか、家へかえつてみると、お寺からの入学祝いが届いていました。ほんとにはりがたいことです。わたしら女は特別にも、子や孫を育てるについて、私の子、うちの孫と、子や孫を自分にとりこみ囲いこんで育っています。

わたしの子は、わたしが死んでしまつたら、それで別れ別れ。うちの孫も、そのうちわたしが死んでしまえば、それっきり別れてしまわなければなりません。が、こうしてババーアも孫も、おんなんじほとけさんの子にならせていただいていたら、ババーアが先に死んでも孫があとに残つ

☆日時 六月八日（土）日帰り研修  
☆コース 〔全但バスにて〕本山参拝  
　　本山で昼食——本廟参拝・納骨式——比叡山参詣——出石直接行つていただく方へは後日時刻などお知らせします。

☆遺族は必ず参加してください。現地へ

☆参加費 一人一萬円（交通費・拝観料  
　　昼食・懇意を含む）

　　詳細は後日

☆申し込み 五月中

# 研修旅行

でも、やっぱりおんなんじほとけさんの、お慈悲の大きなのちのなかで、いつもでもいいっしょ。出会えているしあわせをこうしていただいたことを、わたしは私なりに、きょうは思わせていただきました。  
ほんとにありがとうございました。厚くお礼を申し上げます。